

川合清丸 かはひ きよまる 社會教育家。嘉永元年十一月二十一日伯耆國生れ、大正八年六月二十四日歿（八四—一九一七）。字子徳。號伯耆御民、如々道人、山陰道士、無々道人、福壽庵主等。神官の家い生れ、太一垣神社社掌となる。のち東京い出、神儒佛統一の國教創設を提唱、明治十一年山岡鐵舟、鳥尾小彌太等と日本國教大道社を結成して、機關誌『大道叢誌』を創刊。二十五年には大道學館を設立して子弟の教育に當つた。

著書は日本國教大道社版『佛法必用論』（再版・明治二十五年二月）十五頁刊）、『大道學館掲示講義』（明治二十六年九月—二十五年刊）、『京都春花記』（明治二十九年四月十日刊）、『譯陰騭錄』（内題「袁氏譯陰騭錄」明治二十九年九月六日刊）、『國譯父母恩重經』（再版・明治二十二年四月十八日刊）、『福徳自在』（明治二十四年十一月六日刊）、『大廟講辭』（四版・明治三十四年十一月十日刊）、『京教道徳の必用』（再版・明治二十五年七月十八日刊）、尺牘『福田説』（七版・明治二十六年三月十日刊）、『増長財命經』（譯、明治二十七年二月十五日刊）、『大和魂』（明治四十年九月十四日刊）等多數。他に『國譯玉耶女經』（明治二十二年霜月二十一日序、佐々木正治刊）、口述『氣海丹田吐納法—附灌水法』（海野景彰實驗・伊藤尚賢編、明治四十五年三月十八日東京崇文館）、『川合清丸全集』全十卷（昭和六年—八年刊）がある。

